

2024 年度

教職課程

自己点検・評価報告書

法政大学

2025 年 3 月

目次

I.	2024 年度教職課程自己点検・評価委員会 議事録	1
II.	2024 年度教職課程自己点検報告書	8
	2024 年度自己点検の総評	8
1	教育理念・学修目的	8
2	授業科目・教育課程の構成と授業実施	9
3	学修成果の把握・可視化	11
4	教職員組織	11
5	情報公表	14
6	教職指導（学生の受け入れ・学生支援）	15
7	関係機関等との連携	16
	資料一覧	17

自己点検報告書には、4年に1回、もしくは毎年評価を行う項目があるが、今年度は毎年評価を行う項目についての検討を中心に行う。今年度の主な加筆・修正点は3点である。

1点目は、「2024年度自己点検の総評（P1）」である。昨年度、評価委員の先生からは、今後自己点検を実施していくことで、問題の見落としを平時から防いでいくこと、数的な指標を検討・明確にしていく必要があることが指摘された。そのため、指標を明確にしつつ、自己点検・評価、改善のサイクルを構築していくことが課題になっている旨を加筆した。また主な指標として、「教職課程履修者数」「教員免許取得者数」「教職就職者数」の3つについて経年変化を見ていき、本学の教職課程の満足度についてはそれぞれの項目ごとに検討していく。直近の3年間の動向に基づくと、教職課程を履修する学生数や教員免許の取得者数は横ばい、教職就職者数は若干の増加傾向が見られている。また教職課程の満足度について、8割程度の学生が「満足」「やや満足」となっている。満足度の詳細については、参考資料1・2の「教職実践演習」にて実施した「教職課程アンケート」をご参照願いたい。この結果に基づき、本学の教職課程はおおむね効果的に実践されていると言える。今後もこのような指標や数的データをもとに、改善していきたい。

2点目は、学生からの意見聴取についてである。この点については、「授業評価アンケートの実施（P3・2（4）」に記載している。学生からの意見聴取について、これまでは「教職実践演習」受講者へのアンケートを実施していたが、教員採用試験の合格が決定した4年生に対して、教職課程に対する意見・要望を聴取する機会を設ける予定である旨、加筆した。今年度については、12月7日に実施予定の「合格者の体験を聞く会」にて、意見を聴取する予定である。

3点目は星槎大学との科目等履修に関する協定である。昨年度の評価委員からの指摘で、本学の中・高免許取得との両立を心配しているという意見があった。この点については、「教育委員会や各学校法人との連携・交流（P9・7(1)）」において、この制度の利用者の学修状況について時間をかけて様子を見ていくと記載している。

その他の修正・加筆事項については、例えば教育実習成績報告書の書式修正、教職課程自己点検・評価報告書の作成・公開、次期学習支援システムにおいて履修カルテの機能を組み入れる予定であること、教職の授業におけるゲストスピーカーの活用についてなどがあった。基本的には昨年度の報告書に若干の加筆を試みただけで、大きな変更はない。

（1） 評価委員との意見交換

◆鬼頭評価委員：

私が担当するスポーツ健康学部は教職課程センターと場所が離れているため、教職課程センターの活用が進んでいないという問題点がある。本来教職課程センターが指導できる話を、学生が教員に尋ねる傾向があると感じる。学生が他の学生の影響を受けやすい傾向があり、（就活する周囲を見て、）教員に向いていると感じる学生でも3年生になると教職課程を諦めてしまう学生がいた。学部自身の問題もあるが、

本学が教職に力を入れていることを学生が肌で感じられなくなっていると考え。とりあえず教員免許を取得しておきたいという学生もいる点も課題に感じている。スポーツ健康学部は保健体育免許の取得者は多いが、この数値を維持できるのか心配に感じている。

◆松尾教職課程センター長：

「2024年度自己点検の総評」における、「教職課程センター」の満足度は64%とあるが、活用している学生の満足度は高い一方で、活用していない学生の意見が数値に反映されているのではないかと感じる。**教職課程センターをどのように周知していくかが今後の課題である**。本大学の教職課程センターは、他大学に比較しても手厚いフォローや寄り添った対応をしており、卒業後も顔出しをしていると聞く。

◆鬼頭評価委員：

教職課程センターは行けば満足すると思う。「なぜ行けないのか」「なぜ行かないのか」という2点で考える必要があり、「なぜ行けないのか」については、教職課程センターが離れているため、授業の時間割の中での移動時間を考えると、どの時間に行けばよいかわからないという声があった。教職課程センターに行きたいが行けない学生も多いのではないかと感じる。またそもそも知らなかったという学生もいるため、両方のタイプの学生がいるのではないかと感じる。

◆辻本教授：

本学の教職課程センターは、他大学と比較して良いという話を聞いている。他大学も取り組みを真似したいという話があった。教職課程センターの取り組みの周知について、HPやチラシ、ガイダンスで既に試みているが限界がある。小金井キャンパスは理系学部から成り、教職課程の授業は5限や土曜日に配置されているため、余力があり優秀な学生が教員免許を取得する傾向がある。しかし、一般企業のインターンシップに行くと、売り手市場でニーズがあるため、企業就職と比較して教職をあきらめてしまうケースも多い。一般企業に就職してから教職に就くことについて相談したいという学生もいるが、一般企業は人材育成に力を入れているため、教職就職へのリターンはなかなか難しいと感じる。大学院生の方が、就職先の選択肢として教職に関心を持つ印象である。

◆遠藤教授：

教職課程センターの周知の方法として、教職課程ガイダンスで教職課程センターの方に同席していただく、「教職入門」などの初歩的な授業においてゲストスピーカーとしてお話していただく等の方法が考えられる。また月1回スポーツ健康学部の学生が行きやすい企画を行う等、実現可能な周知方法を考える必要がある。**スポーツ健康学部の教職課程センター利用促進について、実際にスポーツ健康学部の教職課程履修者がどれくらいの割合・頻度で教職課程センターを利用しているかというデータを基に、手段を講じたい。**

◆松尾教職課程センター長：

教職への意欲のある学生は教職課程センターを利用するが、そうではない学生は知らない学生も多い。

◆遠藤教授：

一般企業と教職で就職を迷っている学生について、どうやって教職課程センターを利用してもらえるかということが問題である。利用者数と受け入れ態勢とのバランスもあるため、本当に利用したい学生に利用して欲しいと考えている。

◆松尾教職課程センター長：

市ヶ谷キャンパスの教職課程センター利用者数は昨年度の水準を保っている一方で、その他のキャンパスについて利用者数が減っているのではないかと。

◆鬼頭評価委員：

企業は雇用意欲が高く、給与水準も良いことと比較すると、教育現場の魅力は劣るため、教育現場は強い意思がないと続けられない。小学校の採用倍率が低いこともあり、スポーツ健康学部では、星槎大学での小学校教員免許状取得について希望者が出ている。自分がどの校種に合っているのかと考えたとき、小学校に門戸を広げると、小学校教員が合っているというケースもあると感じる。

◆松尾教職課程センター長：

より多くの学生が教職課程センターを活用することで、教員になりたいという思いを持つ学生を増やせたらと考えている。

◆安東評価委員：

自己点検のサイクルが上手く回っていると感じている。年次に基づく変化の具合や、本学の教職課程もおおむね順調に進んでいることがよく理解できた。気になった点は以下の2点である。

1点目は、「2024年度自己点検の総評」の中で、「教職課程センター」の満足度の数値が他の項目と違った傾向がある点である。利用している割合が少ないからだろうと考えられるが、キャリアセンターにも同じ傾向があると感じている。一方で、教職の方がより専門性のある情報が求められるからこそ、利用者の割合を増やすという点は注力したほうが良い。教職課程センターは対象となる学生が少ないため、距離に近い関係を保つことができる。例えば教育実習に行く前に、教職課程センターと関係を持つことに慣れてもらう、何かの企画のついでに教職課程センターの企画があるという流れを作っていく等が考えられる。授業以外で、実際の教育現場についての情報のやり取りは教職課程センターが中心になると思うため、今後より多くの人が利用できるような工夫ができると良い。

2点目は、大学院生の教職就職についてである。参考資料の「教職課程アンケート」の通学課程回答者のうち、大学院生は2名しかいない。学部生の時に一種免許状を取得している、もしくは途中まで教職課程を履修している学生もいるため、大学院生には教職という進路があることを提示できないかと考えている。学部生は、6月頃に一般企業への就職が決まるため、どうしても先に決まったところに就職する傾向があるが、特に人文系の院生は2年間で修士が取れるとは限らず、ある意味で余裕があるという状況

である。法政大学は教育学部を設置しておらず、専門的な知識を身に付けて教職に就くという流れがあるため、専門的な学問を修めた大学院生にも教職の道があることを提示できないか。

◆松尾教職課程センター長：

1点目のご指摘について、今は履修カルテを教職課程センターに提出するため、足を運ぶ仕掛けはできている。それ以外にも、より多くの方が教職課程センターを利用してもらうような仕掛けを考えられればと思う。

◆安東評価委員：

企画は既に実施しているため、それへの参加の促し度合いだと考えている。

◆松尾教職課程センター長：

2点目のご指摘について、大学院生には特にアプローチをしたことがないが、何かアプローチをした方がよいだろう。大学院生で教職課程に興味がある学生が、教職課程センターでスタディグループを作るような取り組みがあると良いと考える。

◆安東評価委員：

大学院進学など教育課程が進むほど、視野が狭くなってしまいう傾向がある。研究の道を考えている学生も多くいるが、必ずしもうまくいくわけではないため、そのような学生に教職の選択肢を提示できればと思う。

◆遠藤教授：

教育実習の準備を始める3年生の秋学期は、就職活動も盛んで内定が出る一般企業もある。教職課程センターの受け入れ態勢を考える必要はあるが、1・2年生にアプローチする、授業内で一度足を運ぶことを検討していくのはどうか。

2点目のご指摘について、「教育実習（事前指導）」の中で大学院生を担当したことがあるが、学部生と年齢も異なるため、仲間意識を持ちづらい。専門知識を身に付けており、まじめな印象を持つが、生徒たちへの関心よりも学問的な知識に興味・関心があるため、実習に行くとは苦勞していると感じる。持っている専門性の高さを生かしつつ、生徒指導の面を伸ばしていく必要がある。大学院生は論文執筆に忙しく院生同士の情報交換が難しいが、大学院に進学した時点で教職という道を情報提供することも考えられる。また大学院の研究活動と教職課程のスケジュールをこちらで整理したうえで、提示できるのではないかと感じる。

◆安東評価委員：

大学院では修士号を得ていなくても、専修免許が取得できる基礎資格があるため、活用をしてほしい。

◆遠藤教授

専修免許を取得するメリットが教員採用時においてあまり大きくないことも課題である。

◆辻本教授：

専修免許を所得していても、採用時は人柄重視のため、管理職になる際の参考に活用される程度である。もちろん、専修免許を取得した学生は専門性の深さをアピールすることはできるが、一種免許状と専修免許状の採用時の差はないと感じる。

◆遠藤教授

免許は国の方針に基づいている一方で、大学院生の専門性を活かせる場として、教職が考えられるのではないか。

◆松尾教職課程センター長：

教員採用関係の情報提供について、採用試験の早期化と複線化が進んでいる。早期化については、2025年度の教員採用試験の基準日は5月11日に早められている。複線化については、3年次から教員採用試験の1次試験を受験できたり、1年間の中で複数回試験を実施したりする自治体がある。

◆辻本教授：

教員採用試験の1次試験を3年次から受験できることが教員養成にとって良いことかはわからないが、教師になりたいという意識の高い学生たちは3年生から受けている。

◆遠藤教授：

2年生までに教員採用試験の勉強をしておき、3年次に1次試験を受け、一般企業もその後受けるという学生もいる。

◆鬼頭評価委員：

そういった計画は、1年生から練っているという状況であるか。

◆松尾教職課程センター長：

教職課程センターに行くとそのような情報提供がある。市ヶ谷では10名程度が3年次受験に挑戦すると聞いており、それに対応する講座も実施している。

◆鬼頭評価委員：

多摩の教職課程センターにおいて、3年次受験に対応した講座実施状況はどうか。

◆松尾教職課程センター長：

ニーズがあれば個別指導を行っていると考えられる。

◆鬼頭評価委員：

3年次の教員採用試験1次試験対策は今後の重点の政策として打ち出してもいいのではないか。3年生で教員採用試験1次試験に受かっていれば、先が見通せるのではないか。

◆遠藤教授：

国も本政策を始めたばかりのため、今後この政策が安定するかどうかはわからない。入学時の教職課程ガイダンスで本政策を紹介することで、学生も見通しを立てることはできると思う。

◆辻本教授：

1年生で、まだ何もわからない学生に対してどのようにアプローチをするか。1年生の最初の時に、教員採用試験の早期化や、大学院生の教職取得のメリットをアピールしていく必要があるのではないか。

◆松尾教職課程センター長：

本委員会では、これから教職課程センターでどのような取り組みしていくべきか、大学院生に教職課程の情報をどのように伝えていくか、教員採用試験の早期化・複線化の情報をどのように伝えていくかなどご指摘いただいた。頂いたご指摘については、検討の上、今後活かしていきたい。

※太字下線部は、今後の本学教職課程の課題に関連する発言を強調したものである。

7 配付資料

資料1 教職課程 自己点検・評価項目

資料2 法政大学 2024年度教職課程自己点検報告書（案）

<参考資料>

- 1 教職課程アンケート（通学課程 教職実践演習受講者）
- 2 教職課程アンケート（通信教育課程 教職実践演習受講者）
- 3 授業改善アンケート集計結果（教職科目）

以上

2024 年度教職課程自己点検報告書

2024 年度自己点検の総評

法政大学の教職課程は、2012 年に教職課程センターを設置して以降、全学の委員会である教職課程委員会における意志決定、各学部間の連絡・調整等を中心としつつ、日常業務に関して、さらには教職志望の学生に対する教員採用試験対策については、教職課程センターがその役割を中心的に担うという体制を築いてきた。この間、2018 年度に教職課程の再課程認定、2023 年度に教職課程実地視察を受け、点検や改善を続けており、同実地視察では、「全般的には基準を概ね満たしており、良好に実施されている」との評価を得ている。2023 年度からはさらに自己点検・評価の活動が開始されたが、よりよい教育養成プログラムをめざすに、指標を明確にしつつ、自己点検・評価、改善のサイクルを構築していくことが課題の一つとなっている。

主な指標としては、「教職課程履修者数（教職課程費納入者数）」（2021 年:375 人、2022 年:397 人、2023 年:396 人）、「教員免許取得者数」（2021 年:221 人、2022 年:165 人、2023 年:227 人）、「教職就職者数」（2021 年:60 人、2022 年:73 人、2023 年:74 人）の経年変化、教職実践演習受講者を対象としたアンケートにおける教職課程の満足度：「授業」（2023 年：88%）、「介護等体験」（2023 年：83%）、「教育実習」（2023 年：95%）、「教職課程センター」（2023 年：64%）、「教育課程全般」（2023 年：78%）などが考えられる。これらの指標を中心としつつ、授業評価アンケート（各科目の理解度、満足度等）、教職実践演習受講者へのアンケートの自由記述、教育採用試験に合格した学生との懇談（今年度から）などにおける学生からの意見聴取を踏まえ、総合的に評価・点検、改善していくことが期待される。

教職の過重な労働がメディアで喧伝されるなかで、本学においては、直近の 3 年間の動向をみると、教職課程を履修する学生数や教員免許取得者数は横ばい、教職就職者数は若干の増加傾向がみられる。教職課程の満足度については、8 割程度の学生が「満足」「やや満足」で、学生に対する教育・指導はおおむね適切に行われているが、自由記述からは一部の授業に課題が残されていると思われる。教職課程センターについては積極的に活用している学生の評価は高いが、あまり活用していない学生も多く、教員志望学生への周知が課題である。以上、本学の教職課程の運営・管理、学生の教育・支援については、一部に課題があるものの、効果的に実践されているといえるだろう。

1 教育理念・学修目的

(1) 教員養成の目標設定

点検間隔：4 年

最終点検年度：2023 年度

教員養成の目標は設定されていますか。また、大学の理念と教員養成の目標の関連性はありますか。

法政大学における教員養成の目標は、大学の建学の精神である「自由と進歩」の理念、および 2016 年に制定された「法政大学憲章」を踏まえて設定している。具体的な内容は、下記リンク先を参照。

[資料 1] 法政大学における教員養成の理念

https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/shokai/yousei/

[資料 2] 大学憲章

<https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/kensyo/>

[資料 3] 理念・目的

<https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/rinen/>

2 授業科目・教育課程の構成と授業実施

(1) 教育課程の体系的整備

点検間隔：4年

最終点検年度：2023年度

教員養成の目標を達成するために必要な科目が体系的に開設されていますか。

S A B

本学の教員養成の目標を達成するために必要な授業科目は、市ヶ谷・多摩・小金井の各キャンパス、および各学部において適切に開講されている。教職課程としての教育課程の体系性を保持し、履修学生が順序立てた学習ができるように、すべての科目には、配当年次を設定している。各科目の配当年次は下記資料にて公開している。

【根拠資料】

[資料4] 教職課程履修要綱、各学部履修の手引き（デジタルブック閲覧サイト「法政 HONDANA」）

<https://hosei-hondana.actibookone.com/>

[資料5] WEB シラバス

<https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php>

[資料6] 教員免許状取得の手引き（通信教育課程）（学外への公開は無し）

(2) 授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況

点検間隔：4年

最終点検年度：2023年度

ICT やアクティブ・ラーニングなどの効果的な教育手法はとりいれられていますか。また ICT 環境を含む効果的な教育のために必要な施設・設備は適切に整備されていますか。

学生および教員は、ICT を活用してより効果的な学習を行うための学習管理システム(LMS)を利用して、学習・教育活動を行っている。教材の配布、クリッカーの活用、レポートや小テストの実施、掲示板を通じた授業内容についてのディスカッション、授業に関する連絡・確認等を同一のプラットフォーム上で行うことができる。アクティブ・ラーニング等の効果的な教育手法は、個々の教員が授業内において創意工夫しているが、「学習支援システム」はそうした創意工夫を促進する役割も果たしている。また、講師控え室には、授業内でのグループワーク等の実施に資するために、「アクティブ・ラーニング・キット」（付箋紙やプロッキー等）が配備されている。教職課程実習室には、学生が模擬授業で利用できるようプロジェクタータイプの電子黒板を設置している。（2024年度追記）

なお、通信教育課程の「学習支援システム」の導入は、2024年度からである。

[資料7] 学習支援システムについて

<https://www.hoseikyoiu.jp/lf/gsystem>

(3) シラバスの適切な作成と授業実施

点検間隔：毎年

授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、事前学修と事後学修の内容等が明確に記載されていますか。

はい いいえ

WEB シラバスには、授業科目の目的と到達目標、内容と方法、計画、成績評価基準、教科書・参考文

献、アクティブ・ラーニングの有無、事前の学習課題や学生に求められること等が明示され、公開されている。学生は、授業を履修する際には、時間割（開講曜日・時限等の掲載）機能も併せ持っている WEB シラバスを必ず見ることになる。令和 5 年度教職課程認定大学等実地視察において本学が対象校となり視察を受けた。各教科の指導法の一部科目にあたるシラバスについて、教職課程コアカリキュラムを満たしていないものが見受けられると意見があったため、該当科目についてはシラバスに記載の到達目標と授業計画について、見直しを行った。また、シラバスの入稿時には、該当科目の担当教員が教職課程コアカリキュラムを参照できるようファイルを共有し、確実にシラバスの内容に含めるよう改めて依頼した。さらに、第三者チェックを通して、適切な記述になるよう点検を行っている。

なお、通信教育課程においても、授業を履修する際には、WEB シラバスを必ず参照するように指導している。

【根拠資料】

[資料 5] WEB シラバス

<https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php>

(4) 授業評価アンケートの実施 点検間隔：毎年

教職課程の改善のために、効果的な授業評価アンケートが作成・実施されていますか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
---	---

教職課程の各科目においても、学期ごとに授業改善アンケートを実施し、各教員が、授業の内容・方法、計画、成績評価等を点検・改善するための参考に供している。教職課程センターでは各科目のアンケート結果を集約し教職に関する科目全体の理解度、満足度等傾向分析のための参考としている。また、教職課程の学生が最終年次に履修する「教職実践演習」の受講者に対しては、教職課程全般に関する詳細なアンケートを実施し、教職課程全般の運営と実施のあり方を点検・改善していく参考としている。教職実践演習は教職課程の仕上げ科目であり教職課程についての学生の意見を最も把握できる機会のため、WEB 掲示板で履修者全員に回答依頼するとともに授業担当教員を通じ呼びかけを行っている。回答率（2022 年度 67%→2023 年度 58.5%）の向上は課題である。

本学教職課程センターを利用し、教員採用試験の合格が決定した 4 年生に対しては、本学教職課程に対する意見・要望について聴取する機会を設ける予定である。

【根拠資料】

[資料 8] 教育開発・学習支援センターHP（「学生による授業改善アンケート」集計結果等）

<https://www.hoseikyoiku.jp/lf/project/>

[資料 9] 「教職課程アンケート」回答フォーム見本

<https://forms.gle/9MvHVUJ7zvDPuNYy8>

(5) 教育実習等の実施 点検間隔：毎年

①教育実習は適切に実施されていますか。

教育実習の事前指導では、教育実習の流れやその準備、留意事項についてのガイダンスを行うとともに、実習に必要な教科指導の理論と方法の再確認、学習指導案の作成等を含む実践的な指導を行っている。

実習を行う実習校と大学との連絡体制は、教職・資格課程の事務が責任を持つ体制が取られており、状況に応じて、教員が実習校を訪問するなどしている。教育実習期間中の訪問指導については、学生の教育実習先が東京都内等の公立中学校・都立高校の場合、および法政大学の附属校の場合に実施している。前者では学生が所属する学部の教員が、後者では教職課程の担当教員が訪問指導を担当している。

事後指導は、学生が教育実習を振り返り、自らの課題を総括し、省察する機会としている。

教育実習の申し込み・準備・実施状況等は、教職課程センター運営委員会において、年間を通して随時報告・共有されるとともに、全学的組織である教職課程委員会に報告されている。それらの報告の内には、教育実習に出かける以前、および実習中のトラブル案件なども含まれ、翌年度以降の参考としている。2023年度は、実習校教員から寄せられた意見に基づき、教員の負担軽減のため教育実習成績報告表の書式を修正した。

なお、実習校から届けられる学生の成績等を確認した結果、必要な場合には、教職課程の担当教員による個別面談や指導を行っている。

②介護等体験は適切に実施されていますか。

介護等体験に出かける学生には、事前に授業科目としての「特別な教育的ニーズの理解と支援」の履修を求め、直前には事前指導を実施している。事前指導の内容は、介護等体験の意義や体験先の学校・施設の役割、介護等を必要とする人々についての理解である（なお、通信教育課程においては、遠隔地在住の学生も多数在籍しているため、文書による事前指導となっている）。

体験中にトラブル等が生じた場合は、教職課程の担当教員が面談を実施するなどして指導に当たっている。

学生は、体験後には学んだことや疑問に思ったことを振り返り、レポートを提出する。

介護等体験の状況は、教職課程センター運営委員会において、年間を通して随時報告・共有されるとともに、全学的組織である教職課程委員会に報告されている。

3 学修成果の把握・可視化

点検間隔：4年

最終点検年度：2023年度

(1) 成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況

<p>成績評価に関する全学的基準が策定されていますか。また、学生に対して公表されていますか。</p>	<p>Ⓢ A B</p>
<p>法政大学として成績を11段階で評価し、6割（C評価）以上の得点を合格としている。詳細は、以下において公表されている。</p>	
<p>【根拠資料】 [資料10] 成績評価基準及びGPA制度について https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/seisekihyoka_gpa/</p>	

4 教職員組織

(1) 全学的に教職課程を実施する組織体制

点検間隔：4年

最終点検年度：2023年度

全学的な観点から教職課程の運営を実施できる組織体制が整備されていますか。また、当該組織体

<p>制によって、教職課程の水準の維持・向上のための中核的な役割が果たされていますか。</p> <p>法政大学における教員養成の理念に即して、教職課程に関する教育の実施、研究を推進するとともに、本学の教職課程の全学的な管理、運営、教育及び指導を円滑に推進することを目的として、教職課程センターが設置されている。教職課程センターで行われているのは、以下の事業である。</p> <p>(1) 教職課程についての管理及び運営に関する連絡並びに調整 (2) 教職課程に関する学習、進路、就職等に関する相談及び指導 (3) 教員養成等に関する調査、研究及び開発並びにその成果公表 (4) 教職「履修カルテ」についての相談及び指導 (5) 教員養成に関する各種講座、シンポジウム等の企画及び実施 (6) 教職への就職等を支援するための卒業生等を含んだネットワークの形成 (7) 教職課程の自己点検・評価活動の実施、報告、公表に関する事項 (8) その他、センターの目的達成のために必要な事項</p> <p>教職課程センターを適切に運営していくために、教職課程センター運営委員会を設置して、必要に応じて（現在では年6回程度）審議を行っている。</p> <p>また、教職課程は、全学にまたがる教学事項であり、教職課程の実施主体は、各教科についての課程認定を受けた学部・学会等である。そのため、教職課程センターの運営にかかわって各学部教授会との連絡・調整に当たり、必要な審議・決定を行うために、全学組織としての教職課程委員会を設置している。</p> <p>[資料 11] 法政大学教職課程センター規程（学外への公開は無し）</p>

(2) 教員配置の状況

点検間隔：毎年

①教職課程認定基準で定められた必要専任教員数が充足されていますか。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>
<p>各年度末には、文部科学省に対して教職課程の変更届を届け出ており、その書類作成時には全学の教職課程の全課程の点検を行い、必要専任教員数が充足されていることを確認している。変更届の準備にあたっては、教員の退職・新規採用等の異動情報を確実に反映し、人的にも設置科目的にも法令違反にならないよう学内の教職事務研修会の機会を通じて、教職課程上満たすべき基準を周知して、注意喚起を行っている。</p> <p>【根拠資料】 [資料 12] 教職課程の変更届（学外への公開は無し）</p>	

②担当授業科目に関する研究実績等をふまえ、適切な教員配置がされていますか。
<p>専任教員・兼任教員を問わず、各学部教授会において、教職課程の授業科目を担当する教員を採用する際には、担当科目に関する研究実績等を適切に点検・評価したうえで、採用・配置している。</p>

③教員養成の目標への理解及び教職課程改善のためのFDは実施されていますか。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>
<p>毎年度、『法政大学教職課程年報』を発行し、全学的な教職課程の実施・運営についての概要を公表している。年報は、学部長会議や全学の教職課程委員会においても配布・報告され、教職課程についての</p>	

理解を深めるための機会になるとともに、教職課程の改善のための意見や要望等を吸い上げるチャンネルにもなっている。

また、教職課程センターでは、毎年度、公開シンポジウムを実施している。教職課程に関する情報収集や意見交換、教員を目指す学生に資するテーマの講演、あるいは事例発表や検討が行われる等、公の場でのFD的な活動の場となっている。なお、公開シンポジウムの実施内容については、『法政大学教職課程年報』において資料として報告・公表している。

【根拠資料】

[資料 13] 教職課程年報

https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/shokai/annual/

[資料 14] 2024 年度シンポジウム「命と愛に生きる～このとりのゆりかごから始まったいのち～当事者の語りから考える“みんなで子どもを育てる社会”」

https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/info/article-20240603160836/

https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/info/article-20240709120408/

(3) 職員配置の状況

点検間隔：毎年

①教職課程を適切に実施するための事務組織が設けられ、適切な職員数が配置されていますか。

S (A) B

教職課程を専任として担当する事務組織を学務部学部事務課教職・資格担当に設けており、文部科学省、各教育委員会、各社会福祉協議会等の諸手続きを一括して行うとともに、教育実習、介護等体験、教員免許状一括申請の業務を統括し、教職課程センターの運営、人員管理を行っている。

また、市ヶ谷、小金井、多摩、通信教育部、大学院の各学部（研究科）事務に、教職課程の履修指導、教育実習、介護等体験の諸手続き、学力に関する証明書を作成する職員を配置している。各学部（研究科）事務と学務部学部事務課教職・資格担当は常に連携して対応にあたっており、適切な人数を配置している。

上記に加え、市ヶ谷、小金井、多摩キャンパスに、教職課程センターを配置し、教職課程を履修する学生の学習、教育実習、教員採用試験等の相談及び指導を行う相談員、事務職員を配置している。

【根拠資料】

(市ヶ谷キャンパス)

全体統括として兼務担当管理職 1 名、専任事務職員 3 名、事務嘱託 2 名。

教職課程センターに専門嘱託（相談員）1 名、事務嘱託 1 名、臨時職員 2 名。

各学部、大学院、通信教育部にそれぞれ教職担当者を配置。

(多摩キャンパス)

教職課程センターに専門嘱託（相談員）2 名、臨時職員 1 名。

各学部、大学院にそれぞれ教職担当者を配置。

(小金井キャンパス)

教職課程センターに専門嘱託（相談員）1 名、臨時職員 1 名。

各学部、大学院にそれぞれ教職担当者を配置。

②教員養成の目標をふまえ、適切な履修指導を実施するためのSDは実施されていますか。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>
<p>教職課程を専任として担当する事務組織が、その他教職に関連する事務組織（学部事務等）に向けて、教職課程に関する事務研修会を毎年実施している。</p> <p>2024年度の事務研修会テーマは下記のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力に関する証明書の記載欄変更およびその他注意事項について ・教職課程履修要綱、学則、変更届の関係と法定単位について ・教育実習校決定までの流れと学生指導 	
<p>【根拠資料】</p> <p>[資料 15] 研修会開催通知（学外への公開は無し）</p>	

5 情報公表

(1) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第172条の2のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報の公表

点検間隔：毎年

<p>法令に定められた情報公表は学外者にもわかりやすく適切に実施されていますか。</p> <p>a. 教員養成の目標</p> <p>b. 教員養成に係る組織と教員数</p> <p>c. 各教員の学歴・業績と担当科目</p> <p>d. 教員養成に係る授業科目と内容、授業計画</p> <p>e. 卒業生の教員の就職状況</p>	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>
<p>下記資料にて公開している。</p> <p>a・b・c：教職課程センターHP（資料16、17）</p> <p>d：WEB シラバス</p> <p>e：教職課程年報</p>	
<p>【根拠資料】</p> <p>[資料 16] 教員養成に係る教育の質の向上に係る取り組みに関すること https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/shokai/torikumi/</p> <p>[資料 17] 教員紹介 https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/about/3553/</p> <p>[資料 5] WEB シラバス https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php</p> <p>[資料 13] 教職課程年報 https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/shokai/annual/</p>	

(2) 教職課程の自己点検・評価に関する情報の公表

点検間隔：毎年

根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の報告書が公表されていますか。	はい <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/>
--	---

各種データは『法政大学教職課程年報』にて公開している。また、教職課程自己点検報告書を作成し、HP で公開している。

【根拠資料】

[資料 13] 教職課程年報

https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/shokai/annual/

[資料 22] 教職課程自己点検報告書

<https://www.hosei.ac.jp/application/files/5817/1022/6373/2023.pdf>

6 教職指導（学生の受け入れ・学生支援）

(1) 教職課程を履修する学生の確保に向けた取組 点検間隔：毎年

<p>教職課程に関する積極的な情報提供が行われるとともに、教員養成の目標に照らした適切な学生の受け入れがされていますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>学生の入学時には教職課程ガイダンスを実施し、教師という職業の基本情報、求められる資質・能力、教職課程の履修・手続き方法、心構え等を発信して積極的に学生を受け入れている。また、各キャンパスの教職課程センターの利用を呼びかけ、教職を目指す学生に対しては、積極的な支援や各種情報の提供に努めている。</p>	
<p>【根拠資料】</p> <p>[資料 18] 教職課程センターHP 「【市ヶ谷】2024 年度教職ガイダンスのお知らせ」</p> <p>https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/rishu_list/important/article-20240322140431/</p>	

(2) 学生に対する履修指導の実施 点検間隔：毎年

<p>「履修カルテ」は有効に活用されていますか。</p>	<p>S A B</p>
<p>学生に対しては、教職課程の履修の初年時に「履修カルテ」の使い方をガイダンスにおいて説明している。以後、学生は、学期ごとに自身の履修状況を振り返り、カルテに記入していくことになる。学生が記入したカルテは、教職課程の担当教員が、卒業までに複数回（3 年次 4 月、3 年次秋学期、4 年次秋学期）、履修の進捗状況や授業への取り組み等について、学生に対して個別のフィードバックを行っている。2023（令和 5）年度教職課程認定大学等実地視察において、本学が対象校となり視察を受けた。履修カルテの活用により個別的な指導はなされているとの評価であったが、今後は履修カルテをデジタル化し、そのデータを活用して教職指導に生かすことを検討するよう意見があったため、教育開発・学習支援センターへ依頼し、次期学習支援システムで履修カルテの機能を組み入れる予定である（2025 年度から）。</p>	
<p>【根拠資料】</p> <p>[資料 19] 履修カルテについて</p> <p>https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/about/other/karte/</p>	

(3) 学生に対する進路指導の実施 点検間隔：毎年

<p>学生に教職への入職に関する情報を提供するなど、学生のニーズに応じたキャ</p>	<p>はい いいえ</p>
--	---

リア支援体制が構築されていますか。	
<p>各キャンパスにおける教職課程センターにおいて、各自治体・学校法人から寄せられる教員募集要項や採用説明会、学習ボランティアや教師塾の募集案内等の情報提供を行っている。また、教職課程センターに配属された相談指導員が中心となって、教員採用試験の合格をめざすための面接、集団討論、論文、教職教養等の対策講座や、個別相談指導等を実施している。教員採用試験後は、合格者の体験を聞く会を設け、4年生が経験談を語り、次に採用試験を受ける後輩学生達へ実体験に基づく助言・アドバイスをを行う機会を設けている。</p>	
<p>【根拠資料】 [資料 20] 教職課程センター 利用について https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/shokai/riyou/</p>	

7 関係機関等との連携

(1) 教育委員会や各学校法人との連携・交流 点検間隔：4年 最終点検年度：2023年度

教育委員会や各学校法人との連携・交流が図られていますか。また、それらによる教職課程の充実や効果的な学生指導が果たされていますか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
<ul style="list-style-type: none"> ・各自治体の教育委員会による採用説明会を学内で実施している。 ・本学の付属校との連携・協力を随時行っている。 ・教職課程センターのイベントとして、交流のある学校に訪問し、授業見学を行うプログラムを実施している。 ・高大連携協定に基づき、三輪田学園中学校・高等学校、関東国際高等学校、横浜創英中学・高等学校に教育実習生を送っている。2024年度に工学院大学附属中学校・高等学校が連携校に加わった。(2024年度追記) ・星槎大学との通信制課程科目等履修に関する協定により、小学校教員免許状取得を希望する学生は、一定の基準のもと、当該科目履修にあたり学費減免措置を受けられるようにしている。なお、この制度の利用者の学修状況については時間をかけて様子を見ていく。 	

(2) 学外の多様な人材の活用 点検間隔：毎年

教職課程の充実を図るために、教員やゲストスピーカー等として、学外の実務経験のある多様な人材が活用されていますか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
<p>教職課程センターの各種イベントにおける講演者・スピーカーや、教員採用試験の対策講座における外部講師には、多くの現役教員などを呼んで、イベントや講座を実施している。</p> <p>毎年、本学卒業の現役教員を集め、現役教員間の交流を目的とした「卒業生教員の集い」を実施しており、本学教職課程と現役教員との関係強化と、帰属意識の向上を図っている。</p> <p>その他、教職の授業においては、必要に応じてゲストスピーカーが活用されている。</p>	
<p>【根拠資料】 [資料 21] 教職課程センター お知らせ https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/info/ (各キャンパスの教職課程センター相談室から、講座の予定や学生へのメッセージ等が毎月掲載され</p>	

ている。)

【資料一覧】

- [資料 1] 法政大学における教員養成の理念
https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/shokai/yousei/
- [資料 2] 大学憲章
<https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/kensyo/>
- [資料 3] 理念・目的
<https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/rinen/>
- [資料 4] 教職課程履修要綱、各学部履修の手引き（デジタルブック閲覧サイト「法政 HONDANA」）
<https://hosei-hondana.actibookone.com/>
- [資料 5] WEB シラバス
<https://syllabus.hosei.ac.jp/web/show.php>
- [資料 6] 教員免許状取得の手引き（通信教育課程）（学外への公開は無し）
- [資料 7] 学習支援システムについて
<https://www.hoseikyoiku.jp/lf/gsystem>
- [資料 8] 教育開発・学習支援センターHP（「学生による授業改善アンケート」集計結果等）
<https://www.hoseikyoiku.jp/lf/project/>
- [資料 9] 「教職課程アンケート」回答フォーム見本
<https://forms.gle/MfSmSXgpHGKQfPJ88>
- [資料 10] 成績評価基準及び GPA 制度について
https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/seisekihyoka_gpa/
- [資料 11] 法政大学教職課程センター規程（学外への公開は無し）
- [資料 12] 教職課程の変更届（学外への公開は無し）
- [資料 13] 教職課程年報
https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/shokai/annual/
- [資料 14] 2024 年度シンポジウム「命と愛に生きる～こうのとりゆりのゆりかごから始まったいのち～
当事者の語りから考える“みんなで子どもを育てる社会”」
https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/info/article-20240603160836/
https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/info/article-20240709120408/
- [資料 15] 研修会開催通知（学外への公開は無し）
- [資料 16] 教員養成に係る教育の質の向上に係る取り組みに関すること
https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/shokai/torikumi/
- [資料 17] 教員紹介
https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/about/3553/
- [資料 18] 教職課程センターHP「【市ヶ谷】2024 年度教職ガイダンスのお知らせ」
https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/rishu_list/important/article-20240322140431/
- [資料 19] 履修カルテについて
https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/about/other/karte/

- [資料 20] 教職課程センター 利用について
https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/shokai/riyou/
- [資料 21] 教職課程センター お知らせ
https://www.hosei.ac.jp/kyoushoku_katei/info/
- [資料 22] 教職課程自己点検報告書
<https://www.hosei.ac.jp/application/files/5817/1022/6373/2023.pdf>